

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000705		
法人名	営利法人		
事業所名	有限会社 グループホーム花(2階)		
所在地	小樽市最上2丁目19番9号		
自己評価作成日	令和5年3月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172000705-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の外出自粛の為、毎年継続して行っていた、当ホームの敷地内でのフリーマーケットの開催、町内会館での予防体操に参加できませんでしたが、来年度から予防体操には参加予定です。又、地域交流(近隣の保育園や中学校、近隣のお寺の行事への参加は今年度行うことが出来ました。コロナが下火になっている時期に、ドライブ(きのこ王国～ホビの丘～ワイン工場)、松ヶ枝町内のお祭り、天満宮祭り、ミルクプラントへ出かけたり、大般若節分会、どんど焼き、初詣等、少しづつ外出の機会が増えております。
ホーム敷地内にある畑で、豆撒きから収穫、漬物作りまで入居者様と一緒に رفتり、季節の行事 ミニ運動会、七夕、夏祭り、花火大会、敬老の日、ハロウィン、クリスマス会、年越し、書初め、節分、ひな祭り、入居者様全員の誕生日会等は入居者の皆様と楽しんで行うことが出来ました。
ホーム内でのカラオケ大会、脳トレ、レクリエーション、体操、歩行練習等、フレイルの防止に努めています。
また、毎月のホームでの様子を撮影した写真を掲載している「花たより」を各フロアごと作成し、個別で手書きの手紙を添えて、ご家族様に毎月送っております。なかなかコロナで面会が難しいご家族様にとって、ホームの様子がわかり安心と喜ばれております。line面会も実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果(2階)

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時には必ず理念や職員での取り決め目標などを研修し伝え、フロアーリビングの記録等で座る位置から目に付く所に掲示する事で共有と実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過の外出自粛前は、幼稚園、中学校との交流や、花で開催しているフリーマーケットは欠かさず行っていた。また近隣のお寺の行事や町内会館での予防体操等に参加したりして地域との交流をしていた。今年度はフリーマーケットと予防体操は出来なかったが、コロナの状況を見ながら、幼稚園、中学校との交流や、お寺の行事には参加できた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	暖かい季節には近所を散歩したり、コロナ過の外出自粛前は町内会の行事に入居者様が参加することで、職員の対応等見て頂いていた。また直接や電話での相談があった時には対応をしている。町内会総務部長さん、町内代表の方は、2か月に一度の運営推進会議で、認知症の人の理解や支援方法を共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の入居者様や職員の状況や防災等の取組であったりコロナの感染対策等を議題として質疑応答にて色々な意見を頂いたりしてサービス向上に活かしている。今年度からのLineでの面会の開始は、賛同があった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所での集団指導に参加したり、介護保険課、生活支援課、保健所などに相談や業務報告などで直接出向いたり、電話して助言やアドバイスなどを頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠については常に開いているが、夜間に関しては外部からの侵入を防ぐ為にも、やむを得ず施錠している。又、3か月に1度身体拘束防止適正化委員会を開催し日頃のケアでスピーチロック等が行われていないか等の聞き取りをし、職員に振り返り周知徹底するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアの実践にむけ、3か月に1度虐待防止委員会を開催し、年2回の身体拘束等の適正化、虐待防止委員会のための研修を行っている。また職員に身体拘束、虐待を行わない為の自己点検チェックリストを年2回実施して頂き、研修に繋げて学び防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長年努めている職員は数年前にで学んでいるが、新しく入社した職員は学べていない。今年度ホーム内で実施する予定だったが開催できなかった。来年度、ホーム内研修で学ぶ機会を作り、コロナ過の外出自粛が収まったら、関係者と話し合う機会を作りたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には、時間をかけて、入居者様やご家族等の不安や疑問点を尋ね、十分に時間を掛けて説明を行い理解・納得を図っている。又、退去せざるを得ない心身状況に陥った際には、次の施設等を紹介し、申し込み代行している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会用紙に意見や要望を自由に記述できるスペースがあったり、意見箱も設置しているが、記入頂ける事がない為、面会時に口頭で現況を伝えたり、毎月お手紙と花便りにを通して状況をお伝えしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者と職員は個別で面談をして意見要望等に耳を傾けている。又、何かがあるときには都度、朝の申し送りの時やフロアミーティングを開催し話し合いをして業務の見直し等をおこなっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、介護職員には自己評価表を行ってもらい、上司がその評価表を活用して日常の勤務状態、職務に対する努力・実績に応じた評価を行い、昇給や賞与など処遇改善を図り、やりがい・向上心を持って働けるような環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人期間は、入社してからの一定期間は面接シートや振り返り日誌を書いて頂き、口頭や筆談コメントのやり取りにて、管理者は日々現場で職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過に成る前までは、管理者がケアネット研修会を通じて、他業種や同業者との方等と勉強会やネットワークづくりなど交流を図ったり、日頃のサービスの向上に努めていましたが、現在は他者と交流する機会が作れていません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人様との面談は必須であり、ご本人様またはご家族様から生活習慣・不安な事・要望等を聞くようにして、ご本人の安心を確保して生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるにあたって入居前に何度も電話でやり取りや直接来訪して頂き、ご家族様から生活歴や現在の状況・状態や不安な事、要望を聞く事で安心して暮らしていけるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず担当ケアマネやご家族様からfax、電話、事前面談にて情報収集をして状況を把握するとともに、ご家族に申込書及び基本情報シートを記入して頂き、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には自分で出来る事は自分で行なって頂き、職員は、出来る事・出来ない事を見極め、ご本人様がホームでの役割をもち協力して共同生活が送れるよう、自立支援のケアプランを作成し支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送にて日々の日常生活状況等を報告して状況の共有を図り、何かあると直接電話をして報告連絡相談等をしている。コロナ後は玄関でドア越しの面会、lineでの面会を行っている。又、ご本人様がご家族様に連絡したい時などは橋渡しをして家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの定期的に法要しに来て頂いているお坊さんや掛かりつけ医院・美容室など入居後も変更せず馴染みの関係が途切れないように支援している。ご家族様に確認の上、友人等が面会や電話がきた場合も対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が日常生活自立度や認知症自立度の差によって気が合う気が合わない等という事もある為、しっかり職員が見極めて気が合う者同士ではの席を近くに配置したり、り職員が間に入るなど配慮して孤立しないよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族様や転居先または病院から連絡があった場合など、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて入居されていた時の情報を提供するなどしてご本人様やご家族様のフォロー・相談・支援に努めている。退去後にも交流あるご家族様がいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、入居者様との会話から希望、意向などを聞き取りしてケアプランに反映したり要望に応じて物品購入や外出支援等をしている。困難な場合には、面会時等にご家族様から話を聞くなど意向を汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ずご家族様及びご本人様から話を聞いたり、担当ケアマネから頂いた情報等にて暮らし方、生活歴、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。入居されてからもご本人様との会話にて情報を得るなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェック等や、会話および日々の様子を観察して記録に残し、又、看護師による健康管理を実施し一人ひとりの健康状態の把握をし、職員間の情報共有を図り、心身状態、有する力等の現状の変化を見逃さないよう把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りやミーティング等にて管理者、ケアマネや看護師、介護士を含め職員間で日常の状況や入居者の様子または会話であったり日々、情報共有並びにモニタリングなど行い、それぞれの意見やアイディアを反映し現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに日々のケアの実践結果や気づきの様子を個別記録やモニタリングを行い、ちょっとした変化等にも注意を払い職員間での連絡を密に情報共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の外出自粛や人的余裕が無い時もあり、なかなか難しいが、出来るだけ散歩をしたり、お祭り、初詣、どんど焼き、ドライブに行ったりと外出支援を行うようにしている。「ラーメン屋さんで食べたい」という入居者様の意向を汲み取り、個別に誕生日に外食もした。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の外出自粛の為、毎年継続して行っていた当ホームの敷地内でのフリーマーケットの開催、町内会館での予防体操に参加できなかったが、来年度から予防体操には参加予定。又、地域交流(近隣の保育園や中学校、近隣のお寺の行事への参加は今年度行実施でき、豊かな暮らしを楽しめる支援を行った。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様またはご家族様の希望通り納得の得た病院へ受診している。又、なるべく職員が同行し、医師に日常の様子など適切に報告をして良い関係を築きながら適切な医療を受けられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師は、週2回定期的に入居者の健康管理および朝の申し送りに参加並びに身体処置等をして頂いたり情報共有をしながら利用者に適切な支援が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師・看護師・医療連携室と連絡を密にとりあい様子観察に行くなどして状態を把握するよう努めている。又、相談・助言をいただくなど退院時は安心してホームで生活ができるよう病院関係者と関係作りを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に「看取り支援は行わない事」と、「重度化した場合の対応に係る指針」をご家族様に説明し同意を得ている。実際に重度化し主治医が当ホームでの生活が困難と判断した場合には入院または他施設へ転居出来るように外部と連携を図っている。今年度は家族様と本人様の意向により、主治医と連携を図りながら看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年は消防隊員に急変や事故発生時に備えて、救命救急講習研修を行って頂いたが、コロナ感染予防の為、現在は消防署員の派遣は行っており、内部研修で救命に必要な応急手当方法などを学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は必ず、日中・夜間を想定した避難消防訓練を実施している。コロナ過の外出自粛前までは全ての訓練時に消防署職員の派遣と火災通報装置に登録されている地域住民にも参加をお願いしていたが今年は参加を控えて頂いた。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳とプライバシーを損ねないよう言葉かけの際には、本人の反応能力に応じて言葉使い口調や態度に気をつけて接遇マナーを守って対応をするよう日々職員に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず小さな事でも本人の意思を尊重して、自己決定できるよう努めている。又、職員が本人の言葉や表情、動きから本人の意思をくみ取るように代弁するなど働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で業務を優先しないよう、一人ひとりのペースを大切に、精神面や体調面に配慮し、意向に沿う支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れた好きな服を選んで頂き、自由に着用しているが、概ね半分の方は、職員で用意している。状況に応じて、季節や天候などを考慮して職員がアドバイスをするなど身だしなみに気を付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	概ね食事作りは職員がしているが入居者様の好みを聞く等し、提供できるよう努めている。可能な時には入居者様と一緒に準備や食事作りを行う事もある。片付けに関しては生活リハビリとして入居者が当番制で行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を個別の生活記録にて記録して申し送り事項で共有している。食欲低下や水分が進まない時には好みの物を用意する等、栄養バランス等を考えて1日を通じて確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて必ず歯磨き及び義歯の定期的な洗浄にて清潔保持・歯周病予防に努めています。又、必要に応じて訪問歯科にて口腔ケア・在宅医療・歯科衛生士又は先生に相談、アドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、様子を見ながら声掛けなどにて自立にむけた誘導支援を行なっている。自立されている方は見守りケアなど自立に向けた支援を個別に行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日一人ひとりの好みに合わせて定期的にヤクルトやヨーグルト、乳酸菌飲料等で腸内環境を良くするなど自然排便を促す取り組みや水分の摂取量管理を行ない便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回体調の確認やバイタル測定後に本人の希望を確認し入浴している。又、数種類の香りと色が異なる入浴剤を必ず入れ、日替わりで少しでも温泉気分になれるよう努めている。又、状況に応じて週2回以外で状況に応じてであるが、シャワー浴や足浴槽、清拭等を行なう時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握して体調や希望に応じて自由に自室にてベッドに横になり休息をとれるような環境作りに努めて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等は朝の申し送り時や連絡ノートにて変更簡薬や用法や用量の確認し職員間で共有している。誤薬防止の為、薬チェック表を活用し、必ずく二人でチェックをおこない声掛け等にて、飲み忘れが無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の後片付けを生活リハビリも兼ねて役割分担をして、出来る限り個々の入居者の力や体調に配慮をおこない当番制で行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員で出来る限り一人ひとりの希望に沿えるよう、コロナ過の外出自粛前は季節に合わせた外出先を選び外出支援をしたり、全員での外出支援は困難ではあるが、外食・買い物・ドライブを行っていた。コロナ過後でも、コロナが下火になっている時期に、ドライブ(きのこ王国～ホビの丘～ワイン工場)、松ヶ枝町内のお祭り、天満宮祭り、ミルクプラントへ出かけたり、大般若節分会、どんど焼き、初詣等、少しづつ外出の機会が増えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、お金が無くなった等の問題が発生しても責任を負わない事をご家族様には理解同意していただいた上で、自己管理が可能な入居者様に限り、お金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があれば電話をできるようにしているが、ご家族へ電話しようとする人は殆どいない。携帯電話で交流されている入居者は数名いる。ハガキや手紙のやり取りを行っている入居者もたまにいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じ心地よく過ごされるようにリビングや廊下の天井や壁に、職員や入居者の手作りで飾り付けをして常に生活感や季節感を採り入れて明るく心地よい空間作りになるようにしている。又、冬の時期には加湿器に濡れタオルを干すなどして湿度対策をするなど居心地のよい共用空間づくり支援をしている。又、コロナ対策としマスク手洗い消毒は徹底し黙食を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席の配置は、気の合った入居者様同士であったり、気の合わない人とのトラブルなどがおきかないよう、職員間で話し合い、その時々状況に応じて都度工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、居室には馴染みのある使い慣れた家具を持って来て頂いたり、壁に写真を貼る事や仏壇等も持ち込む事も可能としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口の表札(干支の絵を一緒に貼っている)やトイレには大きな文字で、わかりやすい様に張り紙をしている。廊下は全て手すりが備え付けられている為、安全に移動する事ができる環境作りになっている。		